

氏 名：	清水美代子
学位の種類：	博士（看護学）
学位記番号：	甲 第 3 号
学位授与年月日：	令和6年3月12日
学位授与の要件：	学位規則第4条第1項該当
論文題目：	[和文] 就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標 の開発 [英文] Development of Indicators for Assessment of Conflict Between Job and Caregiving in Working Caregiver.
論文審査委員：	主査 山田 聡子 副査 百田 武司 (主研究指導教員) 副査 野口 眞弓 (第1副研究指導教員) 副査 西片 久美子 副査 高橋 清美

博士学位審査結果の要旨

本研究は高齢社会が加速する日本において、就労介護者の介護による離職や負担の軽減を目指して、産業看護職が就労介護者の介護と職務との役割葛藤を早期に把握できるアセスメント指標の開発を研究目的としている。

先行研究から既存尺度の不足を適確に指摘し、本研究における指標開発の必要性は合理的であり、産業看護学の発展に寄与する学術的な意義を有している。さらに、本指標により、就労介護者の職場に存在する産業看護職だからこそ、就労介護者個々に合った直接的なアプローチが行えることや職場環境の改善に向けた介入につながり、かつ、就労介護者の状況に応じた地域資源の紹介等、産業看護職が行う地域職域連携に貢献できることから、本指標の開発は実践的・社会的な意義を有している。

研究方法は、予備研究を起点として研究 1、研究 2、研究 3 から構成されている。予備研究では、高齢近親者の介護を担う就労介護者 12 名に半構造化面接によるインタビューを行い、9 名を分析対象としてアセスメント指標の基となる就労阻害要因と就労継続要因を特定した。

研究 1 では、予備研究結果と文献検討結果から 76 項目のアセスメント指標項目案を作成し、産業保健看護専門家 7 名を対象とした修正デルファイ法により内容妥当性の検討を実施し、さらに、就労介護者 7 名を対象とした予備調査を経て 69 項目から成るアセスメント指標案を作成した。予備研究 1 および研究 1 の過程において必要十分な文献が網羅され検討されており、修正デルファイ法を用いた内容的妥当性も適切な方法により実施された。

研究 2 では、就労介護者を対象とした調査 (419 人) および再検査法による再調査 (305 人) によりアセスメント指標の信頼性・妥当性を検討し、最終的に 7 因子 27 項目からなるアセスメン

ト指標を確定させた。アセスメント指標の併存的妥当性は、Work Family Conflict Scale (WFCS) 日本語版 (渡井ら, 2006)、健康関連 QOL 尺度 SF-8 日本語版スタンダード版、職場のソーシャル・キャピタルを評価する簡易尺度(オクサネンら, 2013)の尺度を適切な理由をもって用いており、調査の結果、妥当性があることが確認できた。さらに、探索的因子分析の結果、内的整合性が確認できた。これにより、就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標を確定するに至った。

研究 3 では、産業看護職 5 名の協力を得て、その指標の①利便性、②妥当性、③使用による効果、④実施可能性を調査した。その産業看護職 5 名を対象に、アセスメント指標を実際に使用してもらい、その後フォーカスグループインタビューを実施した。分析の結果、開発したアセスメント指標により就労介護者の状況をアセスメントすることができ、産業看護職が行う個別面談などで活用可能であることが確認できた。

以上より、研究目的と整合する体系的で計画的、かつ、妥当な研究方法による研究遂行であり、信頼できる成果として就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標の開発に至った。これらは独創性および新規性を有する成果であり、加えて、産業看護師による実証性をも有する成果が得られるに至った。

申請者は学術雑誌における査読付研究論文 1 編以上の掲載などの研究業績を有しており、ディプロマポリシーに沿った能力を有していると判断した。

博士学位論文として、本論文は、全般的に論理的な一貫性が保たれており、学術論文としての体裁が保たれている。さらに、前述のように学術的価値、実践的な有用性を有しており、その完成度からも、審査委員全員一致で博士 (看護学) の学位論文として「合格」と判定した。

以上